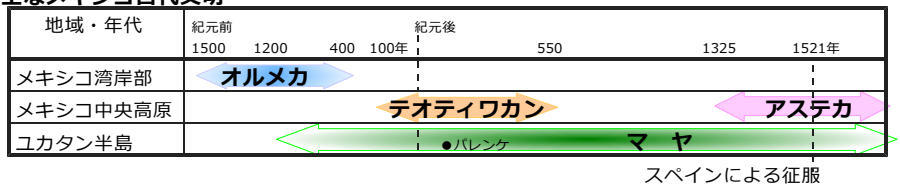
2023 年 9 月 5 日(火)

古代メキシコ文明への誘い

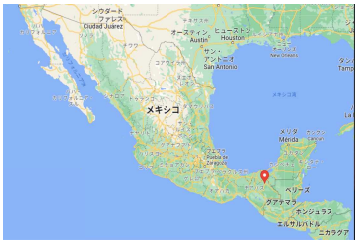
上野の東京国立博物館平成館で今月 3 日まで開催されていた「古代メキシコ　── マヤ、アステカ、テオティワカン」に何とか間に合い、公開の目玉であった「赤の女王」と対面して来ました。

紀元前 16 世紀のスペイン人による征服までメキシコには、数多くの古代文明が栄えましたが、中でも有名なのがオルメカ、マヤ、アステカ、テオティワカンの 4 つの文明です。これらの文明が成立した時代、栄えた地域は下図のように別々ですが、メソアメリカと呼ばれるこられの地域では、ピラミッドの建設、食糧源としてのトウモロコシ、人身供犠、天体観測･暦など共通した文化的特徴を持っています。

主なメキシコ古代文明



今回、初来日したパレンケ 13 号神殿の「赤の女王」は、1994 年の調査で発見されたもので、エジプトのツタンカーメン王墓発見と並んで 20 世紀最大の発見と言われています。真っ赤な辰砂(しんしゃ)の粉で覆われた壁に安置された墓で、緑色の孔雀石(くじゃく)のマスクで飾られており、バカル 1 世の王妃と考えられています。パレンケは、マヤ文明の古典期(西暦 300 年から 900 年頃)にユカタン半島西部に栄えた古代都市国家で、王の葬送に当たり巨大なモニュメントとして神殿が建設されています。それから 1200 年以上を経て、鬱蒼とした熱帯の密林の中から発見され



Google map による

たことは、歴史的に大きな価値ある観光地としての遺産（世界遺産）としてだけでなく、後世の私たちに多くの研究の場を与えてくれたことに感謝しなくてはなりません。しかも、こうして現地に行かずして、直接、確かめることのできる機会を得たことはすばらしいことです。本校社会科では、この展覧会見学を夏の課題の一つに指定し、感動と学習を共有したところです。

なお、今回の展覧会では個人利用に限り会場内の全作品が撮影可能という寛大な措置が施されていました。スマートフォンのカメラ機能の充実で多くの人が撮影に夢中になっていましたが、せっかくの機会ですからもっと自分自身の目で彫刻の微細な技や色の違いを観賞し、観察眼を鍛えた方が良かったのではと、他人事ながら感じた次第です。

参考文献

青山 和夫監修（2023）『マヤと古代メキシコ文明のすべて』宝島社新書, 192ページ.

杉山 三郎（2023）『メキシコ古代都市の謎　ティオティワカンを掘る』朝日選書, 216ページ.

時空旅人編集部（2023）「時空旅人　古代メキシコ　歴史紀行」2023 年 7 月号（Vol.74）

校長　石飛　一吉